

地域ではぐくむこどもと未来: 共創ネットワークの実践と理論

Practice and Theory of Co-creation Network: Children and Future Nurtured by the Community

研究代表者 上須道徳(経済学研究科 教授)

研究協力者

[学内] 洲上ゆかり(工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 助教) 今井貴代子(SS1 特任助教)

矢倉誠人(共創機構 特任研究員) 池田光穂(大阪大学 名誉教授)

[学外] 杉田菜穂(大阪公立大学大学院経済学研究科 教授) 湯浅誠(東京大学先端科学技術研究センター 特任教授) 松本文子(国立民族学博物館 機関研究員)

松本みなみ(独立行政法人国際交流基金 バンコク日本文化センター 職員)

共同研究機関・連携機関

一般社団法人 タウンスペース WAKWAK 社会福祉法人 堺市社会福祉協議会

1. プロジェクト目的と概要

誰一人取り残さない社会、命輝く社会を実現するためには地域の様々な関係者が協働でビジョンの構想および課題解決に取り組む必要があります。本プロジェクトではこの協働を共創ネットワークと呼び、地域、こども、未来をキーワードに共創ネットワークを実践し、そこから得られる経験や知見から共創ネットワークの理論を構築することを目的とします。

本プロジェクトの活動の柱は大阪府の自治体等の行政関係者、こども食堂(こどもの居場所)運営者などの中間支援者、企業が参画する「大阪府こども食堂自治体等連絡会」の実践です。こども食堂はコロナ禍において全国で急速に増加しており、大阪府下でも2020年度450カ所余りだったこども食堂が現在は600カ所を超えています。こうしたこども食堂では非支援者のみならず支援者が交流を通じて共感しあう様子が各方面で報告され、多くの自治体や関係者もこども食堂の設立や運営を支援する動きがみられます。こども食堂やこどもの居場所は地域のだれもが参加し輝くことのできる場所で、一人一人が輝く社会の実現のためのコアインフラとなりえます。こうした居場所を展開・維持するためには、地域のステークホルダーが連携し、協力・共創ができるネットワークの構築が重要だと考えます。

プロジェクト代表者と参画者はこれまでに全国のこども中間支援団体である「むすびえ」などと協力しながら、大阪府下の自治体部署や社会福祉協議会、中間支援組織やこども食堂運営者が参加する連絡会を開催し対話の場づくりを行ってきました。本プロジェクトではこの対話の場においてコアとなる組織を選定し連絡会の運営体制の構築を進めるとともに、「共創」のためのネットワークを形成することを目指します。具体的には、連絡会の「共創ネットワーク」としての機

能や役割、運営の持続性について模索しながら、地域のビジョン形成および課題の抽出・解決策の探求を進めています。

2. 2022年の活動

共創ネットワーク

共創ネットワークは共通の理念やビジョンを持つ異なる分野の関係者による対話の場です。また、対話の中で、課題や情報を共有し、よりよい地域づくりのための知見を創造し広めるネットワークの場でもあります。2022年はこのネットワークを実践していくうえでコアとなる大阪府下の「こども」にかかわる組織・団体による対話を重ね、大阪府下のこども食堂にかかわるネットワークの組織づくりを行いました。

具体的には自治体関連部署、社会福祉協議会、地域のこども中間支援団体、大学から構成されるコアメンバー(世話役)を形成し、ネットワークの理念や機能、運営について協議を重ねました(表1を参照)。また、この大阪府のネットワークは「大阪府こども食堂自治体等連絡会」と名付け、第1回の連絡会を2023年3月3日に開催するよう準備を進めています。

図1は共創ネットワークの構造と実施体制になります。共創ネットワークの名称は「大阪府こども食堂自治体等連絡会」で、立場を超えて自由な対話、自主性を重視して、持続的な共創の場です。ここでは、大阪府下のこども食堂を支援する自治体、社協、中間支援組織がつどい、こども食堂の運営支援に関する情報共有、府域でこども食堂を応援する企業等との情報・意見交換を行うことを通して、中間支援組織の支援を行うことにより、府下のこども食堂の発展や包摂的な地域社会の創設を目指します。

連絡会の参加メンバーは20団体ほどが決まっているものの、これから大阪府下の行政機関・社協・中間支

立場を超えた自由な対話と自主性を重視し、 持続的な共創の場をつくる

援組織（企業等）を対象にメンバーの拡充を図っていきます。

共創ネットワークコアメンバー
=大阪府子ども食堂自治体等連絡会世話人
(2023年1月現在)

- 大阪府子育て支援課（自治体・世話役）
- 大阪府社会福祉協議会（社協・世話役）
- 大阪市社会福祉協議会（社協・世話役）
- 豊中市子ども未来部子ども政策課（自治体・世話役）
- 枚方市子どもの育ち見守りセンター見守り支援推進担当（自治体・世話役）
- 堺市社会福祉協議会（社協・世話役）
- NPO法人キリン子ども応援団 子ども食堂（中間支援・世話役）
- 全国子ども食堂支援センター・むすびえ（中間支援・オブザーバー）
- 一般社団法人タウンスペース WAKWAK（中間支援・世話役・協働事務局）
- 大阪大学（教育機関・世話役・幹事・事務局）

表1

また、共創ネットワークの機能は以下の4点があげられました。

- ①ネットワーク間の顔をつなげる
- ②情報共有・意見交換
- ③ネットワーク活性化のための
スピナウトプロジェクトの検討・実施
- ④支援構築に向けたアクション：
例えば、要支援データの可視化と分析、
子ども食堂開設支援、食支援、
学生の育成プログラムの作成・実施等

3. 2023年の活動

これまでの議論の中で、情報や課題の共有、子ども支援に関する研究テーマや実践のアイデアが対話の中に出てきています。またネットワークの運営方法、持続性については異なる立場から様々な意見が出されています。2023年度は、1) 連絡会の充実を図りながらネットワーク形成の条件や役割を検証、モデル化を行うこと、2) 対話から抽出された研究テーマ、課題解決に取り組むこと（必要に応じて外部資金を獲得する）、を柱としながら活動を行っていきます。

大阪府子ども食堂ネットワーク全体像 -実施体制および構造-（案）

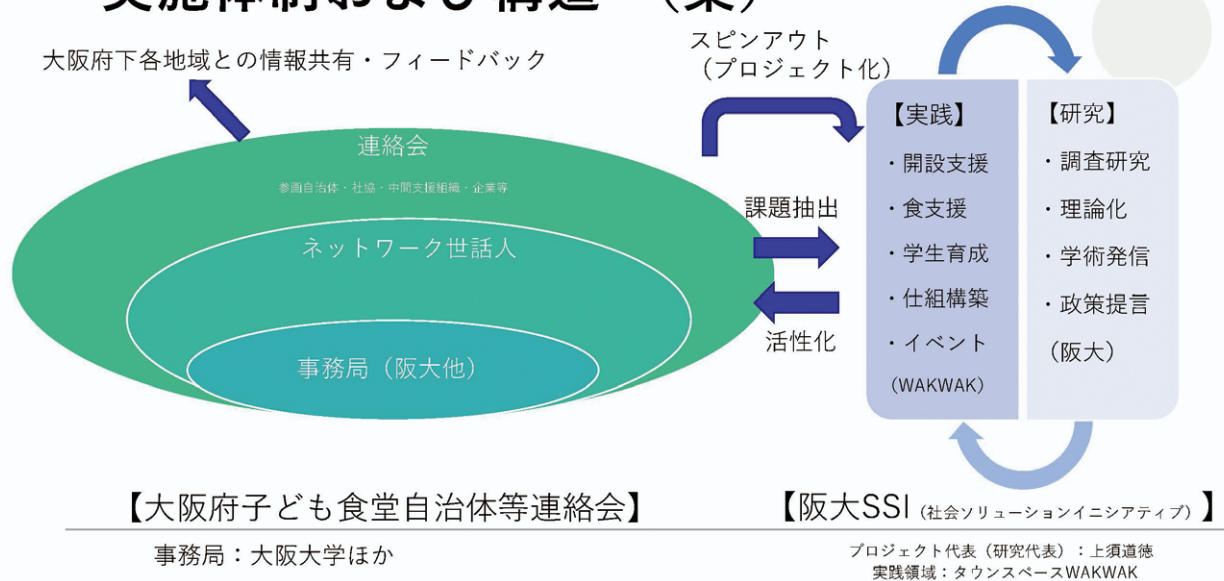


図1：共創ネットワークの構造と実施体制（タウンスペースWAKWAK 岡本工介氏作成）